私見創見 Thursday

後悔を乗り越え、挑戦せよ！

勉強部活

畑山篤 志学塾塾長

はたやま・あつし
1960年、八戸市生まれ。明治学院大卒。志学塾を運営しながら、全国各地で講演。「勉強部活」を提唱、放課後学習支援などに関与する。全国学習塾協会理事。

いつでも、誰とでも、共に過ごすひとときは一期一会なのだろうが、恩師との再会は、やはり感無量だった。

2011年、仙台市の私立高校で志学塾が提唱する全国初の「勉強部活」が始まった。学校の先生が部活のコーチに就き、生徒が選手という感じで、正規の部活動。いわば志学塾の指導法を実践する〝学校内学習塾〟だ。私は部活の〝監督〟として仙台に日帰り出張を続け、たくさんの子どもと出会ってきた。

今年も大学入試センター試験が終わり、3年の部員はここから私立大、国立大2次に挑む。先日の部活では、センター試験に失敗した京都大薬学部志望の女子から2次の出願先について相談があった。

大手予備校の示す合格判定のボーダーライン（A～Eの5段階のC判定）より下だから、どうしても薬学部なら国立を諦め私立にと担任に勧められたと悩んでいた。私は志望理由を尋ねた。彼女は「母が脳溢血で亡くなりました。だから薬を開発して母と同じ病気を治したい。絶対薬学部なんです」と答え、「でも判定が…」とうつむいた。

ボーダーラインの意味を尋ねると、「合格最低点ですか…」。私は「合格者と不合格者の人数が同数になる得点帯だ」と資料を見せながら説明した。「大学入試は、A判定でも落ちるし、E判定でも受かる者が出る。逆転合格の秘策を授けるから最後まで諦めずにやれるか？」と続けた。すると「はい、頑張ります！」と背筋が伸びた。

翌週、仙台駅前から学校に向かうバスの中で、先日の薬学部志望の女子から「先生、席を替わります」と声を掛けられた。「大丈夫、まだ若いから」と言って断った。

バスを降りて道すがら国立2次の出願先は決まったか尋ねた。父親も交えた3者面談で、判定値で合格の可能性の高い北大工学部を担任から勧められたと。そして、親に学費で迷惑をかけたくないので…と言って涙を浮かべた。

私は「京大に挑んでみたかったね」と気持ちを察しながら、これからの進み方を助言した。「誰でもやったことで後悔し、やらなかったことで後悔する。そして、高齢になるにつれ物忘れが多くなる。しかし、記憶力が衰えても消えない記憶がある。それは知識でなく、やらなかったという後悔だ。京大に挑まなかった後悔は、次の機会に挑むことで記憶としては更新される。北海道でどんどんチャレンジしてね」と伝えた。

彼女は歩みを止め直立不動でうなずいた。「バスで席を替わりましょうかと言えたしね。若者よ、当たって砕けろ！　でも砕けちゃいけないよ」と言ったら笑顔になった。

一人でも多くの子どもが、自分の夢に向かって挑戦してほしい。いつの時代も子どもは私たちの未来であり希望だ。

終の棲み家と決め、移住した恩師に会うために。

毎年、丁寧な直筆の年賀状をいただいてきた。あれから50年がたってしまった。部屋のドアを開けると91歳の先生は、あの頃のように背筋をピンと伸ばし、私たちの顔をしっかり見つめた後、「はたやまあつしくん！」と名前を呼んでくださった。

「あれー、何から話したらいいの…」と涙ぐんでしまった。3人でどのくらい語り合っただろう。外はすっかり陽が落ちていた。私は「小学1年の時、先生から読み書きを教えていただきました。先生でよかったです」と伝えた。すると先生は「教え子さんにたくさんたくさん教えていただきました。本当にありがとうございました」と、何度も繰り返しながら私たちの手を固く握りしめてくれた。

しかし、そんな私も60歳を前に何人かの同期と突然の別れを経験し、会っておきたい人には会えるうちに会っておこうと思うようになった。1月下旬、友人と2人で神奈川県大和市を訪ねた。この地を

やったこと、言ったことで悔やむことはよくある。電車やバスで席を替わることを言い出せなかったことはあっても、やらなかったこと、言わなかったことで後悔をしたことは少なかったと思う。

す産めない」空気

麻生氏発言に怒りの声

麻生太郎副総理兼財務相が、地元福岡県で支持者に向け「子どもを産まないほうが問題だ」と発言し、批判を浴びた。翌日に撤回したものの、出産を巡っては、他の政治家の発言もたびたび問題になっている。少子化の背景には労働環境など、社会的障壁があるにもかかわらず、女性に責任を転嫁しているとも受け取れる言説に「こんな空気ではますます産めない」と怒りの声が上がる。

■理解

「産まないのが問題、ではなく『産めない（環境な）のが問題』なのに。こんな簡単なことが分からない人たちが政治家をやっているなんて」「自分らの失策の責任を女性になすりつけたいだけ」。インターネットには、麻生氏の発言を非難する声が相次いでいる。

■本音

出産や子育てに関し、悲観的な見方をする人は少なくない。公益財団法人「1more Baby応援団」（東京）が2018年、既婚男女約3千人に実施した調査では、「日本は子どもを産みやすい国に近づいていない」と回答した人は7割を超えた。長時間労働など、男性の

与野党からも批判が。公明党の山口那津男代表は5日の記者会見で、「極めて不適切だ。誤解を招く発言をしないよう、厳しく自身に問うてほしい」と苦言を呈した。立憲民主党の蓮舫氏は「子どもが欲しくてもさまざまな事情で産めない女性の心を理解しようともしていない」とツイッターに投稿している。

■言葉

近年、安倍政権や自民党の中枢にいる政治家の発言が物議を醸してきた。自民党の二階俊博幹事長は18年6月、「このごろ、子どもを産まないほうが幸せじゃないかと勝手なことを考える人がいる」と発言。15年9月には菅義偉官房長官が歌手福山雅治さんの結婚に関して「ママさんたちが『一緒に子どもを産みたい』という形で国家に貢献してくれれば」と、国のために出産を促していると受け取られかねない発言をしている。

「麻生氏のような発言がフランスで出ることはあり得ない」。在仏ライターの高崎順子さんはこう断言する。事実婚や婚外子などが多く、伝統的家族観に縛

自民議員の主な発言

※肩書は当時

、2007年1月27日
っているから、
らうしかない

、15年9月29日
の結婚について
もを産みたい」
くれれば

、18年6月26日
ほうが幸せじゃ
る人がいる

水脈衆院議員、
月刊誌「新潮45」
カップルを巡り
くらない、
ない

年2月3日
題だ

より女性の責任？

青森県タバコ問題懇談会 受動喫煙防止条例 県に制定求める

青森県タバコ問題懇談会は6日、受動喫煙防止条例の制定を求める要請書を県と県議会に提出した。

要請書では▽従業員を雇用する全ての飲食店の屋内全面禁煙▽加熱式たばこも紙巻きたばこと同等に規制する▽学校や医療機関、行政機関などの敷地内全面禁煙―など6項目を満たす条例の制定を求めている。

同懇談会の古川（ふるかわ）斉（ひとし）世話人と事務局の新谷進一さんが県庁を訪れ、県健康福祉部の有賀玲子次長に要請書を手渡した。

有賀次長は「県内は喫煙率が高く、たばこに関して寛容な土地柄という印象。健康増進法の改正もあり、県でも有効な対策を取れるよう前向きに検討したい」と応じた。

同懇談会は今後、4月7日投開票の県議選立候補者へのアンケート実施や、県